参加者の感想

◇どうしてもセオリーやパターンで子どもとの接し方や指導を決めてしまっていると感じました。「特別支援」だからできる（だからこそできる）支援、授業、接し方があると改めて感じました。支援級の先生任せにせず、学校、地域、社会全体で一緒に子どもを育てていきたいと思いました。

◇「待つことは最大の支援」分かってはいるけれども、こちらに余裕がなくなってしまうと難しくなってしまい…。大事なのは子どもたちをよく見て理解し、どうすべきかを真剣に考えていくことなのだと改めて実感しました。明日からもめげずに頑張るパワーをいただけました！ありがとうございました。

◇大変な状況もあると思うのですが、お二方の話からは、とても温かい学級の様子がうかがえました。待つことは最大の支援という言葉が心に残りました。支援級の子だけでなく、すべての子どもに必要なことだと思いました。

◇「待つこと」の大切さをわかっているけれど…中学を卒業したあとを考えて、ある程度の型はめはしょうがないのかと思います。いずれ働けるようになるためにルールに従って動けるように。

◇実際に学校で起きている内容を提供いただき、大和市の支援教育について理解を深めることができました。他にも通常級での発達障がいへの対応についてなども、別の機会にお話しいただければ幸いです。

◇遠藤先生のお話を聞いて。

一人の生徒に対して、とても細かく丁寧にとっても分析していて、Aさんが過ごしやすくするために先生が準備されたり、見取ったりしていることが、本当にすごいなあと思いました。勉強になりました。「待つことが最大の支援」や「どうすれば参加できるかを先生が考え、準備する」「その子に合った道を探す」など、Aさんのことを考えた支援、対応は、Aさんや特別支援の子どもだけでなく、子どもたちに共通することだと思います。遠藤先生の子どもをみる温かい視線、お話からたくさん伝わってきました。私もこれから先生のようにたくさんアンテナを張って子どもをみていきたいと思います。ありがとうございました。

　清水先生のお話を聞いて。

清水先生の１７年指導されてきたお話はとても知ることも多く、勉強させていただきました。「普通級の先生がトイレの介助もしていた」時と、今と、「先生」というか「担任」は変わらなかったのに、普通級の先生がすることが減った（？）というか、お任せになっているところがあるな、と私自身の反省も含め、思いました。清水先生がお話していたように「みんなでみていく」というスタンスが本当に大事なことだし、先生がそのためにされている工夫もとても参考になりました。特別支援の先生方の実践は、子どもたち一人一人をどうみるか、何をみるか、などとても学びが多いです。ありがとうございました。

◇様々な課題をもつ子どもたちの支援について、とても親身に対応されていることがすばらしいと思います。とても参考になりました。ありがとうございました。

◇時代はみんなの学校へ…福祉の中でも「共に生きる」。場所や取り組みは違えど、周囲への理解と支援は大切ですね。先日映画「母さんがどんなに僕をきらいでも」　という中で、「気づいた人から変わるかもしれない」という言葉を聞きました。大変なことですけれど、気づいた人から動く、つながることが大切。とても勇気のいることなので、自分自身の居場所、話を聞いてくれる人の存在は大切です。お身体を大切に。ともに頑張りましょう。ありがとうございました。

◇「待つは最大の支援」という言葉は、印象に残りました。やろうと思ってもなかなか時間や気持ちに余裕がないとできないことだったりします。待つことで子どもの声を聞く時間が増えて、その子にストレスのない支援ができるのかな、と思います。また、お二人がお子さんのお話をするときにすごく楽しそうにしているのが、とてもいいなあ、と思いました。学校現場にいると、支援級の子に対して、もしくは支援級の先生に対して厳しい表情を向ける先生もいます。それが、支援級の先生に「教室に入ってごめんねー」という言葉につながるのかと思うと、とてもさみしいです。支援級の先生は大変そうではありますが、一人の子に向き合って、その子のことだけに集中して考えられるという立場でいられるのはとても幸せだなあと思いました。

◇遠藤先生のお話では、細かく事例紹介をしていただき「私たちの高校にも似たような生徒がいるなあ」と感じながら聞かせていただきました。本人を認めてあげながら、ほめてあげながら大切なことを伝えていくことの重要さを改めて感じました。

　清水先生のお話は、高校に勤めているとわからない小学校支援級のことを教えていただき、大変勉強になりましたし、実際の様子もぜひ見学に行きたいと思いました。通信制高校はいま発達障がいの生徒さんが増えてきていますが、小・中学校の先生からしっかり引き継ぎ、そして自立支援、進路決定のサポートをしていきたいと思います。貴重なお話、本当にありがとうございました。

◇今、二学年の通常級で担任をしているのですが、支援級と通常級の間くらいにいる生徒の居場所づくりが難しいという話にとてもそうだな、と感じました。なかなかどうすればいいのかはわかっていないのですが、同じ悩みをもっていた先生方がいたことを知っていただけでも、少し気持ちが柔いだ気がしました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

◇大変勉強になりました。特に、子どもを観察し、それをベースにして学習を組み立てることや、そうした営みを学校の中に位置づけることが、子どもたちを学校が捨てない、ということの第一歩かなあと思いました。

◇先生方の立場での日々の支援、日々のご苦労が伝わってきました。お二人とも子どもへの愛情が感じられて、うれしく思いました。本日の講師の先生のような先生がいること、大変心強く思いました。毎年先生が変わるなどの環境設定の必要な子どもたちにとって良くない状況があること、継続した支援になりにくいことなどの課題が挙げられましたが、今後どうしていくのか、教育委員会の人と一緒に検討したいと思いました。

◇交流級の先生方とも、もっと積極的にかかわって、グレーゾーンの児童のかかわり方についても、話し合って支援の輪を広げていって、より良い環境を作っていこうと思いました。ありがとうございました。